

図画工作，美術 表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成する授業づくり

表現及び鑑賞に関する資質・能力が相互に関連して働くようにすることを積み重ねることが、より豊かで創造的な「思考力，判断力，表現力等」の育成につながります。表現と鑑賞の指導の関連を図る際には，発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考え*（学習の中心）を軸にそれぞれの資質・能力を高められるようにすることが大切です。（*美術科では，目標（2）前半部分「造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，美術の働きなどについて考え」に当たる。）

【題材例】中学校第1学年「花の命を感じて」 内容のまとめ「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」

学習の中心：花を見つめることを基にして，造形的なよさや美しさを感じ取ったり，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたりする。

●「花」をテーマとした美術作品AとBを鑑賞し，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考える。

S1：AとBでは花の黄色の明るさが全く違うね。Aは全体も暗いから，不安な気持ちなのかな。

S2：同じ種類の花をモチーフにしても，色使いや描き方でずいぶん印象が違うように感じるね。

S1：Bは，きれいに咲いた花と枯れた花を一緒に描いているけれど，どんな意図があるのかなあ。

●花を見つめ，造形的なよさや美しさを感じ取ったり考えたりしながら，主題を生み出す。

S1：微妙な色の違いが美しいなあ。花同士が仲よく肩を寄せ合ってるみたいだ。花々を温かい仲間として描いてみよう。

●主題を基に，創造的な構成を工夫し構想を練る。

S1：仲間一人一人の個性を表すために，花の大きさや色合いを変えてみよう。温かい感じを出すために，色をにじませたり重ねたりしてみよう。

発想や構想

学習の中心

鑑賞

思考力，
判断力，
表現力等
の高まり

●：学習のねらい

S1，S2：造形的な見方・考え方を働かせながら学んでいる生徒の姿

●生徒作品や美術作品から，造形的なよさや美しさを感じ取ったり，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたりして，見方や感じ方を広げる。

（完成した生徒作品を鑑賞し，説明し合う）

S2：花を見つめると，穏やかで幸せな気持ちになったんです。穏やかな時間の流れを表すために，ぼかしやにじみを組み合わせ合わせて，全体をまとめてみました。

S1：色使いがとてもきれいです。様々な淡い色を組み合わせ合わせていて優しい気持ちになります。

（導入で鑑賞した美術作品Bをもう一度鑑賞する）

S1：同じ黄色でも明るさや鮮やかさを変えたり，きれいに咲いた花と枯れた花を一緒にしたりしているのは，長い人生の中では，つらいときも幸せなときもあることを表していると思う。



発想や構想と鑑賞に関する資質・能力の相互の関連を図ることは，表現活動において発想や構想と関連する創造的に表す技能を高めることにもつながります。



表現と鑑賞は密接に関係しており，「A表現」と「B鑑賞」の相互の関連を十分に図り，学習の効果が高まるように指導計画を工夫する必要があります。